



住田町に関わりをもってくださいるみなさまへ、
住田町の「今」をお届けします。

最近の すみた

こんにちは。こちら、最近の住田町の様子をお伝えるコーナーです。徒然なるままに、まちの様子について書き綴りたいと思います。さて、住田も冬本番を迎えています。山間に位置する住田町、朝晩は本当に冷えますね〜。うちでは台所の水道の水がよく凍ってます。これぞまさに、#すみたふるデイズ(「すみたらしさが詰まった日々」というイメージでつくった言葉です。このハッシュタグでInstagramも更新してます)です。また、冬のこの時期はイベントが盛りだくさん!とにかく話題に事欠かない住田町。いい写真もたくさん撮れたな〜。そしておいしいものもたくさんですね。美味しいビールにおだんごにお餅...(もぐもぐ)お正月太りが加速ですね。

今年の干支は亥。猪突猛進で参りましょう!2019年、すみたに関わるすべての方に幸あれ!

住田生活2年目突入
編集担当スガワラ

12/7 遠野醸造×kerasse

ビール好きの、ビール好きによる、ビール好きの為のイベントが、12月7日(金)にkerasseで開催されました。株式会社遠野醸造の代表取締役である袴田大輔さんをゲストにお迎えし、約40名のビール好きが集った当日。袴田さんが用意した5種類のクラフトビールと7種類のkerasseの料理のペアリングを楽しむことが出来る、贅沢な会となりました。会の後半では抽選会も行われ、会場のボルテージも一気に高まりました。町を超えたこのような交流をこれからも続けていきたいものですね。



12/9 メリークリスマス!

12月9日(日)、第5回目となるメリークリスマス!が住田町役場の交流プラザで開催されました。すみた森の案内人の会による自然素材を生かしたワークショップに加え、ステージ発表も充実。かっこ花の会や世田米中学校総合文化部による大正琴演奏、住田高校吹奏楽部による演奏なども行われ、多彩なステージ発表で会場は大いに盛り上がりました。毎年アップデートされていく「メリークリスマス!」2018年も楽しいイベントとなりました。



12/27 年末恒例おもちつき!

12月27日(木)、まち家でせたまいいききづくり主催のおもちつきが行われました!天気にも恵まれ、暖かい日差しの下大勢のこどもたちと地域の方々が集いました。当日はまずもち米を蒸すところから始まり、用意された臼と杵で炊きたてのもち米をこどもたちが一生懸命ついていました。味付けも5種類ほど用意され、みんなたくさんおかわりをして終始笑顔の1日となりました。



1/8 みずきだんごづくり

新年を迎えた1月8日(火)、せたまいいききづくり主催で「みずきだんごづくり」が行われました。みずきだんごは岩手県全域で行われる小正月の伝統行事で、1年の五穀豊穡を願い、ミズキの枝にカラフルなだんごを飾ります。冬休み中ということもあり、小学生が大勢集まり、手を食紅で染めながら、カラフルなだんごをこねこね。いろんな色のだんごが揃い、こどもたちも楽しそうでした。ひとつひとつのだんごがすこし大きいせいか、ミズキの枝はかなり垂れ下がり気味ですが(笑)、カラフルな飾

りのおかげでまち家はとても華やかになりました。



1/24 水しぎとすみたの彩り展

水しぎに合わせ開催された、写真家田頭真理子(たがしらまりこ)氏の写真展「水しぎとすみたの彩り展」。まち家世田米駅を会場に、素敵な作品の数々が並びました。田頭氏がこれまで撮りためた、すみたの彩りを感じられる写真がたくさん展示され、地元の人たちも田頭氏の作品を通し改めて住田町のさまざまな「彩り」を感じている様子でした。

また、作品の中には、当日の水しぎ参加者ひとりひとりの顔写真を、大きくプリントアウトしたものも展示され、参加者自身も驚くと同時に大変喜んでいました。毎年恒例の伝統行事「水しぎ」を新たに盛り上げる一役を担った本写真展。来年の水しぎの更なる盛り上がりに向けて!



1/28 LIFE+ vol.6開催!

第6回目となった今回のLIFE+は、アーティストの細美武士(ほそみたけし)さんをお招きしての開催となりました!世田米中学校では細美さんに講師として特別授業を行っていただきました。自身の一人旅の経験を中心に生徒に語りかけながら、歌声も披露。生徒は、ユーモアある話と迫力ある歌声に聴き入っていました。夜は、まち家世田米駅蔵ギャラリー特別ステージにて、アコースティックライブを開催。地元住田はもちろん、近隣市町村からも多くの方が来場し、総勢約70名超のお客様にスパイスとなる時間を提供することができました。





首都圏の
すみたファン
×
住田町

すみたのごはんあがらせ! @東京オープン赤坂店

12/15 夏に引き続き、この冬も東京は赤坂見附を舞台に、住田の食と暮らしを伝えるイベント「すみたのごはんあがらせ!」を開催。今回は、以前から住田町の清流鶏をメニューで扱っている「東京オープン」さんにご協力いただきました。当日は清流鶏はもちろん、ありすポークや住田産の白菜なども持ち込まれ、住田産の食材をフル活用した特別メニューが用意されました。清流若どりのローストチキン、アリスポークのロースト住田の白菜ブレゼ添え、清流ホップ豚のビール煮などなど…。東京オープンさんでは普段から南部鉄器を使用した料理を提供して



いるということもあり、南部鉄器を使用した料理はゲストのみなさんからとても好評でした。葛巻町のくずまきワイン、陸前高田市の神田葡萄園、大船渡市の酔仙酒造のお酒も用意され、ゲストのみなさんも美味しい料理とのマリアージュを楽しんでいる様子でした。忘年会シーズンで忙しい時期だったのにも関わらず、当日は77名のみなさまに、すみたのおいしいごはん・すみたぐらしの楽しいお話を体感していただくことができました。ばらばらの繋がりが、すみたを介してどんどん繋がって、会場内のあちこちで「初めまして」の声がきこえてくる、あたたかい時間となったのでした。



SUMICulture
vol.7

SUMICulture vol.7 「映画という表現」

12/22 今夏より住田町を舞台にショートムービーの制作に取り組んでいた、若手クリエイターチーム「伯楽」の映画「ある夏のできごと」が、ついに完成!クリスマスを目前に控えた12月22日(土)、伯楽のメンバーがまたまた住田へ集い、まち家世田米駅蔵ギャラリーにて完成映画上映会が行われました。東京での初回の構想会議から約5ヶ月半。見慣れた住田の景色が本当に映画になりました。作品エンドロールには地元の中学生なども出演。気仙地方には映画館がありません。映画文化に普段あまり触れることのない地元中学生にとって、彼らの活動はとても新鮮に映るようで、大変興味津々な様子でした。

上映会では、一般社団法人SUMICA代表・村上健也氏、同映画監督・岡部健太氏、伯楽代表・仁田直人氏3名によるトークセッションも行われ、観客の中には中学生も数名見られました。普段住田町には彼らのような20代の若者が多くいません。そのため地元中学生にとって、彼らのような、“先生でもなく親でもない大人”と関わる時間はとても貴重なものになっています。映画監督・映像制作・俳優業...といった普段住田での生活では知ることのできない職業の大人と関われることも、中学生にとっては有益であり、将来の選択肢を広げるためにとても大事な一役を担っているとい



◀「ある夏のできごと」ポスター

えるでしょう。

今後も住田町との関わりを続けたいと言っている伯楽のメンバー。次作の構想も既に固まってきたようです。「ある夏のできごと」に続き、次回はどんなふうに住田町の風景を切り取ってくれるのでしょうか。今後の伯楽の活躍にも乞うご期待!



水しぎ

火伏せの奇祭「水しぎ」

1/24 今年もこの季節がやってまいりました！そう、住田町の奇祭「水しぎ」です。水しぎは世田米に約200年前から伝わる火伏せの奇習で、愛宕地区では毎年1月24日に挙行されます。野宿者に扮して仮装した一団が人々の安全と幸せを願い、鉄鍋に似せた一斗缶を打ち鳴らし唄って踊りながら、家々を回ります。戦後途絶えた時期がありましたが、昭和51年に愛宕地区青年団「一の会」が復活。現在では愛宕、曙地区の消防関係者が伝承活動を続けています。

愛宕地区の水しぎには約40名が参加し、地元住民だけでなく町外参加者も目立ちました。参加者は派手なメイクと着付けで仮装し、準備の時間からみんなテンションアップ！顔を白くしたり、黒くしたり、カラフルに色をつけたり、各々頭をひねり工夫を凝らします。今年は2班に分かれ、ひたすら歩き、踊り、歌いながら約350軒を巡回。商店街沿いに並ぶ住宅に加え、世田米小学校と世田米中学校も訪問しました。年に一度の来訪に、子どもたちは大きな歓声を挙げていました。

町内巡回後は、まち家世田米駅でみずしぎっぺコンテストを開催。町内外の有志による実行委員会が主催し、6回目を迎えました。今年は県内外から11人がエントリーし、輪になって大黒舞を披露。大いに盛り上がりました。(大黒舞の歌詞もなかなかユニークなので右記をご参照ください)1年に1度大人が全力で弾けられるお祭はこの水しぎだけ！また1年後が楽しみです。



数え歌「大黒舞」

見っさいな、見っさいな
見っさいな、見っさいな
御大黒というひとは、
一に、俵を踏んまえて
二に、につこり笑って
三で、盃求めて
四で、四方いように
五つ、泉が涌くように
六つ、無常息災に
七つ、何事ないように
八つ、屋敷を平めて
九つ、心をおさめて
十で、宝をおさめて
大黒舞もこれまでよ
はあ、見っさいな、見っさいな
見っさいな、見っさいな



昔ながらの 手づくり結婚式

昔ながらの手づくり結婚式

1/26 1月26日、伝統的な慶事の風習を再現する「昔ながらの手づくり結婚式」が行われました。住田町内では昔から、結婚式に合わせて花嫁道中や新郎宅での「三三九度(さんさんくど)」などが行われてきましたが、近年は見られなくなっています。地域の伝統や人々の記憶を紡いでいこうと、町から助成を受けた同結婚式実行委員会が主催し一昨年10月以来の開催となりました。住田町在住の新婦・優美さんは、以前にボランティアで住田を訪れた縁で、現在は町の住田高校支援事業などに関わっています。これまで開催された「手づくり結婚式」にも裏方で関わった経験があり、今回の結婚式では主役ということで少し緊張した面持ちでした。

午前から、和装の新郎新婦が練り歩き、世田米商店街を彩ったほか、住田高校前では新婦と交流のある生徒や地域住民らが祝福。普段関わっている生徒たちに祝福され、新婦もとても嬉しそうな様子でした。新婦宅に見立てられたまち家世田米駅では、たくさんの地域の方々に見守られながら、新婦を仲人に預ける盃事や送り酒が行われました。新郎宅に見立てられた下有住地区公民館では、「三三九度」などが行われ、床の間飾りが置かれた中で和装の女性住民らが準備にあたり、手づくりの膳料理を並べるなどしてかつての慶事が再現されました。関わった人みんなの笑顔が弾けたこの日。昔ながらの風習を再現した手づくり結婚式は無事に執り行われたのでした。



花嫁宅に到着！

ふたりとも、すてきです！

新婦宅での送り酒～

すべて手づくりの御膳！
おいそう～

花嫁の髪飾りも、手づくり！



✓発行 住田町 〒029-2396 岩手県気仙郡住田町世田米字川向 88 番地 1

✓制作 一般社団法人 SUMICA 〒029-2311 岩手県気仙郡住田町世田米字世田米駅 13

2019_02_14